婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

時代精神を體得した婦人

國と國との親善—婦人と職業

二大社會問題—民衆政治の基礎

サンガー夫人と産兒制限

海外事情

第二回國際優生學會◎シカゴにおける人種問題委員◎職業紹介所研究◎淪落の女の研究

禮儀の社會的意義

愛・同情・貞操

或る母の感想

教育社會學

毎月一回一日發行　第拾六號　大正十年六月一日發行

東京　婦人と新社會社　發

□山田わか著□

□四六版三百五十頁　定價金貳圓□
□總クロース美本　送料金拾五錢□

戀愛の社會的意義

□□□再版□□□出來□□□

再版の序の一節。『結婚は此の世界を維持して行く一つの原則であります。ですから、人間の一切に結婚があります。又、なければなりません。唯に男女間に許りでなく、思想界にも藝術界にも科學界にも政治界にも商業界にも結婚がなければなりません。眞面目な藝術家は藝術と結婚します。眞面目な職工は自分の扱う材料と結婚します。眞面目な農夫は土と結婚します。かう云ふやうに人間界の一切の原則が皆結婚でありますから其のうちで男と女の結婚は最も大切なもの、最も大きな神秘のしるしであります。本當の結婚をなし得なかつた者の心は粗野でともすると人道の外に飛び出す恐れがあるに反して眞劍に結婚した者は宇宙の創造的精神に合し人道と一ツになつた者であります。世界の創造的意志に自分の創造的意志を結びつけたのであります。そして、此の有意義な結婚は相互平等なる自由な選擇による戀愛の上に成立するものであります。』

東京市四谷區南伊賀町四十一番地
發賣所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

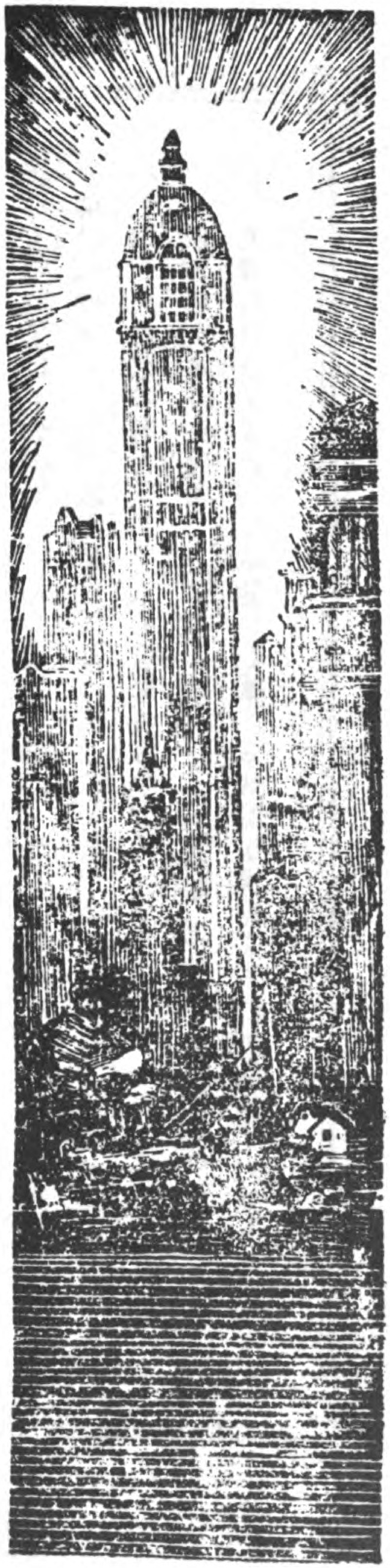
婦人と新社會

現代生活の特異なる不安は現代人を神經衰弱に陷れてしまいました。それで神經衰弱は現代病だなどと云はれて居ます。貧者は生活の不安に脅かされ、富者は精神上の不安に戰慄いて居ます。そして、其の苦しみから逃れ出ようとして貧者は所謂社會主義だとか共產主義だとか、又は、無政府主義だと云ふものに走つて行き、富者は所謂靈界などと云ふものを造つて其の中に走り込みます。一方には、又、青年男女は戀愛哲學だとか、性の研究だとか云ふ偶像を造つて其れに囚はれて居ます。

要するに貧者も富者も青年男女も皆弱點を持つてゐて、そして、それが非常に暗示性に富んでゐます。そして、其處につけ込んでそれを利用し、籠絡しようとしたものが大本敎です。ですから大本敎は被部にある計りでなく大部位には充滿してゐます。名は何であらうとも人の弱點につけこんで自己の利を計ろうとするものは皆一種の大本敎です。そして、それは、病院にも學校にも文學界にも藝術界にも劇界にも化粧品屋にも吳服屋にも料理屋にもあります。殊に、恐るべき大本敎は公娼私娼及び其の外一切の花柳界に其の暴威を揮つてゐます。これ等は皆國民の心身の過勞即ち神經衰弱を利用して自己の利を貪ろうとしてゐるものであります。

これ等の大本敎を退治するには先づ國民の心身を強壯にしなければならないでせう。心身を強壯にするには本能を制裁する武器を供給するのが急務でありませう。

六月號



時代精神を體得した婦人

五月十一日の夜、中華留日基督教青年會の御招ぎに應じて講演を致しました。此の一文は其の時の講演で御座います。中には一度本誌上で述べたことが少し計り御座いますが、これは私が非常に力を入れてゐる考へで御座いますから削らずに其のまゝ載せて置きました。

國と國との親善を計るには

世の中の一切が改造されなければならない時に、今、私共が到達して居ることは皆様もとうに御存じでゐらつしやいます。そして、何處の國でも、今、思想家や社會改

造家が立ち上がつて大騒ぎをして居ります。これも皆様が既でに御承知でゐらつしやいます。けれども、其の思想家や社會改造家が狙つて居る處は大抵形計りを變へることに重きを置いて居るので其處が私には物足りないので御座います。つまり、內容よりは形式に重きを置いてゐる處に命がないと私は思ふのです。

國と國との親善を計ると申ましても、あゝもして、こうもしてといろ〳〵な形式が時々計畫されますが、本當に私共の心からの熱した要求かち始まるのでなく、唯、理智で事を計つても、其の効果は誠に疑はしいので御座います。

私は以前七年間亞米利加に住んで居ました。親類などは勿論一人もなく、當てになる友人もありませんし、若い女の身では何にかと不都合がありますので、東洋の婦人子供のために造られてあつたミッションホームに厄介になることになりました。そして、其のホームの二階には支那の子供や婦人、三階には日本の婦人や子供が居りました。一階は勿論禮拜堂、應接間、監督の居間と云ふようになつてゐました。或る夏の事でありましたが、ホームのうちには僅か二三人の留守番が居るだけで其の外の者は

皆田舍へ避暑に出かけました。けれども、私は、靜かに勉強したいと思ひまして其の留守番の人達と一所にホームに止まることに致しました。すると或る晩のこと留守番の役に當つた米國婦人の先生が小さい女の子を一人抱いて何處からか歸つて來ました。それは支那の子供でありました。二才半でありました。そして、先生は、今、必要上連れては來たが大きな人達が皆留守で此の子の世話をする人がなくて當惑したと云ひました。それで、私は、私がお世話をすると云ひ出しました。先生は直ぐに其れを許して下さいました。

こう云ふことを皆様のお耳に入れるのは誠に悲しい苦しいことでありますが米國に住んでゐる東洋人は日本人でも支那人でも實に悪い習慣を持つてゐます。日本人は子供を賣るようなことを致しませんが妻を賣ることを平氣で致します。支那人は妻を賣るようなことは致しませんが子供を賣ります。其の子供はハモイと云ふ名でありましたが五十弗で賣られたのでそれを先生が横取りして連れて來たのでありました。私はハモイが不愍で涙を一杯ためてかたく〳〵抱かうと致しました。處が、私の其の氣

持ちはハモイの心には通じません。ハモイは其れ迄もシク〳〵泣いて居ましたが私が抱かうとした時に一層大聲で泣き出しました。そして、『マヽ、マヽ』と叫びました。其の時先生が

『私が始め抱かうとした時にもこう云ふ風に泣いたが此の子は今迄支那婦人以外の婦人を見たことが無いので私やお前のように前髪をちゞらしてふくらめてあるのが怖いのかも知れない』と云ひました。それで、私は直ぐに自分の部屋へ行つて、水と油で私の髪をすつかり〳〵なでつけて支那婦人のような顔に致しました。それでも、まだ、ハモイは自分から進んで私に抱かれようとは致しませんが、とにかく、私はハモイを自分の部屋へ連れて行きました。それから三晩の間私とハモイは一所に泣き明かしました。ハモイは『マヽ』とだけは英語で云つてゐるのでありますが其の外に英語は一言も分りません。私は、又、支那語が一言も分りません。唯、ハモイの顔色と身振りを見ては其の要求を悟るのでありました。私は夜中一時もはなさずにハモイを抱いて居ました。言葉は通じないが私がお前を思ふ心を悟れ〳〵とひたすらに頼んで居るので

ありました。ハモイは泣きつかれてはウト〳〵と眠り、又、何にかにおびへたように急に泣き出しては『マ、マ、』と叫びます。『お前のマ、はお前を五十弗の金に代へたのです。聞けばお前のパパもお前のマ、と一所に居るそうだが、何と云ふひどいことをする人達でせう。そんなひどい人でもお前はやつぱりマ、が戀しいの？　お前がそんなに戀しいならマ、の處へ連れて行つて上げたいけれど、先生は、お前のマ、はもう金に目がくらんでゐるからお前を手に入れても決して自分の傍に置きはしない、きつと、又、賣つてしまうと仰有つた。だから、マ、のことはあきらめて私と一所に居てお呉れ。』

私はハモイをかたく抱きしめてハモイの頭に唇を押しつけて、私の云ふ意味がハモイには分らないとは知りながら、移心傳心に通じよかしと祈りながら幾度も〳〵涙を流して云ひきかせるのでありました。そうして、四日五日と經つうちにハモイの涙がだん〳〵少なくなりました。遂ひにはハモイはすつかり私になついて片言らしい支那語でいろんなことを云ひ出しました。私はそれをいゝ加減に想像しては日本語で答へ

て居ました。兩方の言葉が分る人が聞いてゐたなら隨分可笑しかつたろうと思ひます。もう、抱き歩かなくてもハモイは私の行く處へは何處へでもチヨコ〳〵從いて來るようになりました。其の時のなつかしい氣持ち。其の後にハモイは日本人のゐる三階でなく支那人のゐる二階へ移されたこと、又、私が其のミツシヨンホームを出るようになつたことなどに付いてお話したいのですが、そうしてゐては時間が無くなつてしまいますから、ハモイのことに付てはこれだけにして置かうと思ひますが。とにかく、其の時以來私は支那の方に御目にかゝつても決して外國の方と云ふような氣持ちはしないのであります。先日も廣東から支那人の名で雜誌の注文がありました時に、「あゝ可愛いハモイのお國の方」と思ひまして云ひ知れぬ懐しさを感じました。そして、今晩此處へ參りましたのも、矢張り、其の氣持ちにひかれたので御座います。

其處で、私は考へるのです。國と國との親善を計ると云つても、理智計りでどんな計畫をしてもそれは思ふような効果は擧がらない、先づ、切つても切れない情愛が兩方の國の國民に生れて居なければならない、私がハモイを通してお國の方達に懐しみ

を感じるようにハモイも、もし、私を覺へて居るならば日本人に對して懐しみを感じるであらう、私とハモイとの關係のような關係がお國の方と日本の人との間にいくつもく出來て、そして、其の温い感情をもつて外交に當つたならば期せずして事は圓滿に運ばれるであろうことを。

婦人と職業

社會の改造に關してても同じことであると私は考へるのです。制度をどんな風に造り直した處が、人間の性質に變化がない限りは社會の姿は變りません。そして、人間の性質は生れた瞬間から親が其のつもりで育てなければ變るものでない、親が無自覺で、在來の習慣に從つて子供を育てゝ居るならば、矢張り、今迄通りの人間しか出來ない。其處で私は家庭の意義を常に重大視して居るのであります。

米國に十年以上も居た靑年は、外見では全く米國式になります。日本に計り居た男が婦人に對して取るような態度は他人の婦人に對しては決してとりません。けれども彼が結婚して一人の婦人が自分のものになるとすぐ彼は彼のお父さんやお祖父さんと

同じようなタイラントになります。と云ふのは婦人に對して鄭重である彼の態度は鍍金、天麩羅であるからです。彼の本性を現すことの出來ない他人の婦人に對しては鄭重であつても、遠慮のない妻や妹に對しては、すぐ、其の鍍金、則ち、天麩羅は剝げて、小さい時に頭に浸潤させて置いた、自分は男だぞと云ふ氣持ちをさちけ出して婦人に對するタイラントになるのです。

其處で、男も女も今迄通りの空氣につゝまれて育てられて居る限りは、社會の諸制度をどんなに改良した處が、どんなに法律が改正された處が其れは有効には用ひられない。けれども、人間の性質が變りさへすれば自然に諸制度は改良されて行く。であるから、かたちを改良するよりも內容を、則ち、人間の性質を改良するが先きであると云ふのが私の日頃の主張であります。

そして、其の人間の性質を改良するのは何處で、誰がするのだと云ふならば、それは家庭で、そして、母の仕事で御座います。『婦人の天地は家庭である』と云ふ言葉は婦人論者達に長い間呪はれて參りました。けれども、昔の意味の家庭と、今、私が申

ます家庭の意味とは全然異つてゐることを私は皆様に御承知置きを願ひたいと思ひます。

昔の家、則ち、家庭は全然男子のものであつて、婦人は其の家庭のうちの一つの道具に過ぎなかつたのでありますが、私の云ふ家庭は國民の苗床、則ち、種族を造り直す使命を持つてゐるのであります。そして、時代に目覺めた婦人と云ふのは種族的の此の大使命に目覺めた婦人を私は云ふのであります。世界平和の基礎を築き、社會の諸制度を根本から、變へて行くために内容を造り直す、則ち、新しい人間を造ると云ふ大きな使命と比較するならば、婦人の職業とか、婦人の經濟上の獨立とか云ふようなことは些細なものになつてしまいます。

產業、及び、商業は何のために存在しますか? 人間の生活を幸福にするためでせう。人間あつての產業、商業でありませう。產業商業あつての人間ではないでせう。そんならば產業商業に參加するよりも、產業商業の主人である人間を造ることに參加することの方がどんなに大切なことで、そして、貴いことであるでせう。そして、此

の人間を造ることの仕事は男子よりも婦人に適してゐるのであります。
そんならば、婦人は男の眞似をして男のお尻に喰付いて産業又は商業に青い顔して參加するよりも、『私共婦人には此の世界の主人である人間を造ると云ふ貴い使命がある。であるから、あなた方男子は私共が私共の使命を完全に果すことが出來るように毎日の生活に必要な物資を供給するために勵んで下さい。』と、男に宣言する筈であります。それが本當に時代に目覺めた婦人であります。

二　大社會問題

今迄は、そして、今猶婦人論と云へば男女の差を撤排することでありました。これにも私は反對な意見を持つて居ります。

社會上の問題は無數無限に御座います。そして、其の一つ〳〵に付て議論は百出致します。そして、其の結果は議論があちこちとごんがらかつて何にが何やら分らなくなります。こう云ふ時に、或る性癖をもつた人の奇矯な言葉や詭辯は、深い意義、又は、秀越なる智識と間違へられます。そして、それが自分の個性だなどと本人も自惚

れますし、世間も尊敬致します。それがカラッポウな音計りだと云ふ處に人は氣が付きません。つまり、思想を生む本當の活動的人物と、他人の生んだ思想を弄ぶ言葉の製造人との區別が一般の人にはつかないのであります。そして、個人の自由とか個性とか云ふものは重もに事實の上に立脚したものでなく智識の智識であります。

本當の思想を生む人は常に行爲から出立して居ります。そして、其の行爲はつまる處二つになつてしまいます。則ち、人間を造ることと、ものを造ることとに。社會上の問題は無數無限にあつても煎じつめれば此の二つに歸するのであります。自然界の現象は無數無限であつても、それを支配する自然の原則は非常に單純であるのと其れは同じであります。則ち、自然界は引力の大法則によつて保たれてゐるのであります。第一太陽系がそれによつて支へられて居るのであります。

宇宙の精力が延長し、平衡し、共同することによつて、則ち、遠心力と求心力が調和してあらゆる諸現象が生み出されてゐます。人間に性が二つあるのも、此の宇宙間の現象の特長である二重性を人間に延長したに過ぎないものであります。ですから、

男女兩性が出來たのは、遠心力と求心力の無限に多くの無限に變化した進化的な分業と共同の複雜な結果であると私は考へます。もし、さうならば、性の原則は物質の出來る前に既でに存在してゐたと觀測することが出來ます。つまり、人間が出來る前に既でに男性と女性の分子が創造其のもの丶中に存在してゐたと想像することが出來るのであります。そして、進化の結果、男性と女性がはつきりと別なものに造られたのだと考へることが出來るのであります。異つて造られてあるものが異つた作用をもたねばならぬことは余まりに當然であります。

世界一の新らしがりやも宇宙を支配してゐる引力の大法則を舊いと云つてけなすことは出來ないでありませう。

男女の差別を撤排しようとする世間の所謂新思想家は何億萬年の進化の法則が覆へせるものだと思ふのでありませうか?

唯、單に、子供の保護とか育兒とか申ますと其れは何でもないようで御座います。犬も猫も子供を保護し育て丶居ります。何千年の間無智無學な全く奴隸的な女も子供

を保護し育てゝ參りました。けれども、私の意味する育兒と云ふのはそんなのではないのです。新文明は人間の質が變らなければ斷じて生れないと云ふことは前にも申ました。そして、人間の質を變へるには、自分の血、自分の骨、自分の活力を削いで次代を造り、そして、分娩後も自分の胸をもつて次代を養ふ婦人が其のつもりにならなければならない。もし、婦人が其のつもりになつて子供を理想的人物に育てるためには古今東西の智識を皆あつめても猶不足を感じる筈であると私は考へるものでありま す。で、もし、婦人が此の母性と云ふことに目覺めたならば其のうちに自我的の目覺めも思想的理智的人格的の覺醒もあるものと私は信じるのであります。要するに私の主張は母性の革命であります。

今迄のような奴隸的な母でなく、人格的理智的な新時代の母として恥かしくない母性の作用を營みながら經濟上の獨立が出來るならばそれに越したことはないでせうが人の精力には限りがありますから此處に分業の必要が起つて參ります。そして、男はものを造り女は人を造ると云ふ分業の原則は動かせないのであるから、母性擁護は全

國民の責任であると私は考へるのであります。

多くの婦人が愛情を亂用し、妄用し、玩弄視して來ました。けれどもそれは愛情の意義及び價値を知らなかつた結果であると私は考へます。つまり、その權威を認めることが出來なかつたからだと思ふのであります。子供を保護しすぎて子供を遊惰に導いては、それは決して保護を與へたのではなく、無智の結果、害を與へてゐたのであります。盲目的に男子奉仕家庭奉仕を行つてゐたのも矢張り無智の結果であります。子供の保護、男子及び家庭に奉仕することの社會上、人種上の意義を悟つたならば、もう、婦人は盲目的ではなくなります。從つて、不正な男子への奉仕は抗むようになりませう。社會はさう云ふ場合の婦人の後援(うしろだて)とならなければならないのであります。婦人は愛情のために働くと申しましても不正なものに對しては矢張り戰はなければならないでせう。ですから、私は男女の戰ではなく、正邪の戰は止むを得ないと思ひます。邪に對しては戰を挑む場合はあるとしても、併し、男女は決して戰つてゐてはならない。お互ひの分業を勵み、尊敬し合ひ何處迄も調和を計ることによつて、そして、共

同することによつて向上的な生活が營まれ得るものと私は信じます。
女子の高等敎育は實際必要であります。立派に子供を育て上げようとすれば古今東西の智識を皆あつめても足りないのでありますから。けれども、敎育だけでは、則ち最高な智識を得たゞけでは良妻にも賢母にもなり得ません。それは最高學府の出身男子に良夫でない賢父でないものが少なくないと同斷であります。
で、要は人種に對して男子よりもより重い責任が自分にかゝつてゐると云ふことの自覺、則ち、母性の重要さを悟つた時に婦人の人として完成すべき基礎が出來たのであります。其の上の學問こそ母性の向上となり人類を稗益するものとなりますが、其の自覺なき婦人の學問は單なる男性の模倣、男性化した女性、男性文明の增長に資する計りのものとなるでありませう。人類の半數である婦人が其の母性に覺醒した時に不具的文明の造り直しの仕事の第一歩が始まるのであると私は信ずるものであります。婦人問題も婦人に關係ある社會問題も政治問題も皆此處から出立すべきであると私は考へます。

まだ少し時間があるようですから婦人と政治に付て少し計り申上げて見ませう。婦人と政治と云ふと、人はすぐに婦人參政權を思ふのが常でありますが、參政權は政治のうちの唯一小部分であつて、私達の行爲が朝起るから寢る迄皆政治と關係があるのであります。云ひかへれば、私共は皆お互ひに無數な關係をもつて生活して居る、其の關係を調節することが政治であるのです。

今迄、人は其の關係を見ることが出來ないので、婦人と政治は無關係なものであるように考へられて來ました。そして、『政界に於ける婦人の位置は一體何にか？』と云ふような質問が發せられたのでありました。併し、政治が天上の事柄を取り扱ふのでなく、人間以下の動物の生活を規定するのでもなく、國民の生活を規定するものであり、そして、其の國民のうちには私共婦人が居り、殊に、次の國民を生むものが婦人であり、男子と婦人とは密督な關係があるものである限り、どうして婦人が政治の圏外に立ち得るでせうか？

政治は婦人と無關係なものであるように考へられた計りでなく、國民の毎日の生活にも無關係であるように考へるのが今迄の習慣でありました。政治家は政界と云ふ一廓を造つて其の中に立てこもり、國民の幸福、國民の利益の增進とは無關係な生活をして居ました。そして、國民は政治家の仕事や、爭議をまるで相撲か芝居でも見るような氣持ちで見物して居ました。けれども、私達の毎日の生活と政治とをそう云ふ風に別々なものとして置く限り政界の弊風、私達國民の不便は決して除却されるものでないことを私達は悟らなければなりません。

政治は、政界と云ふ一廓の中の所謂政治屋と稱する一階級の、しかも、男子計りが關係するものでなく男子よりもより密接な關係が婦人にあるのです。私達の毎日爲さねばならぬ仕事、其の仕事を爲すに付ての狀態、私達の住む家、私達の食物、水、燃料燈火、子供を養育敎育する狀態、これ等が皆政治と密接な關係があるのです。ですから、これは家庭のこと、それは政治上のこと、又、あれは社會上のことだと云ふような區別はないのであります。私生活、公生活と云ふはつきりした境線はないのであ

ります。従つて、政治は好きだとか嫌ひだとか、又は、干與すべきであるとか無いとか云ふようなことは問題にならないのであります、政治は私達の毎日の生活と切つても切れない、つまり、私達の生活の一部であるのです。ですから、私達婦人は政治と關係があるとかないとかは問題にならない、私達は政治の中に生きて居るのです。

四月二十八日の午後、紐育から來朝されたネーサン夫人の參政權獲得運動に努力された時の經驗談を私は婦風會で聞きましたが、いろ〳〵な種類の運動方法のうちで『無言の演說』と云ふのをされたそうです。それは『婦人の天地は家庭にある。』と云つて婦人の目を家庭内に閉ぢ込め、婦人の目を社會的に開かせまいとする、つまり、社會とは沒交涉な生活を婦人に强ゆる弊を打破しようとしたのだそうでありますが、彼女達は社會構造の模形を造つて商店の飾り窓のやうな處へ飾つて公衆に見せたのだそうです。其の模形のうちには勿論一ッの家があります。そして、赤子が寢て居ります。そして、其の家からは幾本も〳〵の針金が外部に引ひてあります。其の針金は、電氣局に、ギャス會社に、市役所に、衞生局に、學校にと云ふ風に聯絡を取つたのだそう

です。つまり、赤子に呑ませる牛乳から始めて、私達の毎日の生活に無くてならない水、魚類、肉類、其の他溝掃除から芥箱の掃除に至る迄、衞生局の監督がなければならず、文部省の教育方針は直ちに我が子の教育に影響があるし其の外八重十文字に家庭と社會とは聯絡してゐる。其の家庭を維持し、次代の國民である子供を養育するに社會上の智識なく、社會施設に對して發言權なくして、どうして、婦人が婦人としての義務を完全に果し得るかと云ふことを一目瞭然分るようにして公衆の目の前に突きつけて置いたと云ふことであります。

或る一ツの職業に從事するために要する智識と技術は比較的狹いもので役に立ちますが、併し、次代養成の任に當る家庭婦人が其の任務を全ふするためには職業婦人よりも廣い、そして、深い智識を要するものであることは幾度も〳〵私が述べて來たことでありますが、併し、私達が唯筆と口とで云つて居る間に、模形を造つて公衆の目の前に突きつけたと云ふ處が流石亞米利加式だと思ひました。亞米利加式と云へば(これは餘談ですが)あの世界大戰爭中の亞米利加の郵便の劃印には必ず『食物が戰爭に

勝つ、食物を無駄にするな』と云ふ字が這入つて居ましたが、參政權獲得運動者も其の手を用ひて、時々、空店を借りては其處であらゆる日用品をいくらかの安價で販賣し、そして、其の品物の一ツ〳〵に『婦人に參政權を與へよ』と書いた紙片を貼つて置いたと云ふことであります。

私達は或る政治家を嫌ひ、政爭を厭ひ、今の政治から遠ざかりたいと云ふことは可能でありますが、併し、政治其のものから離れようとすることは、私達が此の地上の社會の中に生きて居る間は不可能であります。政治は我々國民全體の必要を滿すものであり滿さなければならないものであります。或る一階級の、又は或る一ツの要求を滿そうとするものではありません。國民全體の缺乏を補ひ、錯綜したいろ〳〵な潮流を圓滑に流れさせ、國民のうちに潛んで居る能力を引き出し發達させる義務を政治は持つて居るのであります。此の點から考へると、此の度、文部省普通學務局の社會敎育課では有益な企てをしました。同課では四月二十八日各府縣知事宛に、『小學校終了の成績優良者で貧困のため中等高等の敎育に進めない兒童は毎年何人位あるか、それ

に對して府縣當局は從來如何なる處置を採つて居るか、特種の育英施設の有無、及び其の方法』と云ふ問ひ合せを發したそうです。そして、各地の回答の纒り次第督學官を派遣して充分に調査視察させ、其の上で適當な方法を定めると云ふのだそうであります。

どんなに立派な天分を備へて居つても周圍の事情、及び、教育の仕方がよろしきを得なければ其の天分は埋もれてしまうものでありますから此の度の社會教育課の企ては有意義であります。凡て政治はそうありたいと思ふのであります。

いづれにしろ、政治は今其の性質を變へねばならぬ時に到達して居ます。誰でもが承知して居るように私達は今過度期に立つて居るのであります。そして、前にも云つた通り、今迄、一部の人の政治であつたのを一般人の政治にしなければならないのであります。處で、どうすれば政治が一般的になるのでありませうか？　一般投票、則ち、普通選擧でありませうか？　私はそうは思ひません。

私達は、私達の生活がお互ひに非常に深い交渉を持つて居ると云ふことを、先づ、

知る必要があります。分業の發達して居る今日、各々の毎日の仕事は直接には自分のためでも間接には皆他人のためであります。そして、私達の生活は他人によつて保存されて居ます。私達の家は私達に無くてはならないものであり、貴いものでありますが、これだけでも無數の他人によつて支へられて居ます。一寸修繕すると云つても、すぐ、大工の手を要します。又、大工の使ふ材料及び道具は何處の誰が造つたのだか私達は知りません。其の外私達の生活に一日も缺くことのできない衣類食料品、及び燃料も何處の誰が造つたのであるか私達は知りません。そして、又、其等の必要品を私達に取り次ぐ商人は今日の處では私達と同じ感情、同じ考へを持つた人々でなく、一種の自動人形のようなものです。それ等の商人がたま〳〵人形でなく意志を用ゆる場合には、大抵、それは惡い方に用ひられます。

私のうちでは毎日の必要品は近所で間に合ふものは出來るだけ近くから取らうと云ふ方針をとつて居ました。商人も勞働者も皆自分達と同じ感情、同じ考へを持つた人間であるからお互ひに親密にしてゐることはお互ひのために有益であらうと云ふ考へ

からでした。けれども、こちらが友人のような態度で接して居ると彼等のうちの或る者は直きに狎れて不正品を持つて來たり不正な利を貪つたりします。止むを得ず、外の店から取るようにすると、それ迄は、こちらでは氣持ちが悪い程、頭を低くしてゐた彼等が急に尊大になつて途中で逢つても横を向いて通るようになります。

私達は其の職業が何であれ、商賣の種類が何であれ、社會上の位置が何であれ、そんなことは無視して唯同じ人間として近所同志は顔を合せる機會も多いし、何事があれば利害を共にするのであるから出來るだけ親密にして居ようと思ふのでありますが前述のような工合でそれがなか〳〵實際には行はれないのであります。併し、政治が一部の人の政治でなく一般の政治となるためには、こう云ふ處の弊が先つ取り去られなければならないのであります。

筋肉勞働者及び小商人と、智力階級及び智的職業階級との間を隔てゝ居る壁がお互ひの理解を缺き、其の結果別な利益の標準を持つて居るからお互ひに親密になれないのだと思ひます。そして、それがいろ〳〵な不便不愉快を醸して居るのだと思ひます。

其處で、私達は自分の屬する階級が何であれ、又、男であれ女であれ、私達は皆同じように一國の一國民であり、世界に於ける一人の人間であり、そして、誰でもが人情の溫きを望むものであるから、他人を敵視するよりもお互ひに手をつなぎ合つてお互ひの利益を計りたいと云ふ慾望を持つて居るものであると云ふことゝお互ひに悟ることが目下の急務であらうと私は考へます。

お互ひのそう云ふ氣持ちが相通じた時に、其の時には、階級の別、職業の別、及び男女の別は自然に除去されて近所同志は親密になり得ると思ひます。そして、今日の都の生活の不愉快な事實の一ツ、お隣りの人お向ふの人とは全く無關心無關係で過すことの代りにお互ひの利害を語り合ひ、ことごとに相談し合ふことが出來るであらうと考へます。そして、確實な信念が出來た時には時の施政者に鞏固な要求を提出することが出來るようになり、そして、これが有力な政治の基礎となつた時に、政治は始めて其の性質が一變し、政治は一部の國民の政治でなく、民衆の政治になるであらうと私は思ひます。

昔は政治と云へば、社會とか國民とか國家とか政府とか云ふ概念から出立して、そして、個人に達しようとしたものであります。けれども、それが個人に達しないで中途で止んでしまいました。其の結果、政治と民衆とが別なものになつてしまつたのであります。つまり、抽象から始まつて抽象に終つたのであります。

けれども、二十世紀の政治は私達の毎日の生活から出立しなければならないのであります。毎日の生活を益々完全にして行くために先づ自分達と密着な關係から、だん〳〵大きな關係へ移つて行かなければならないのです。社會と云つた時には漠然としたものでありますが、其の實體は、先づ、自分に最も近い血族、友人、近所と云ふものから始まつて、それが、だん〳〵大きくなつて行つて、ツイには一國の境を越へて外國との關係となり、世界との關係になるのであります。そして、其の無數の關係に圓滑な聯絡を取るのが政治の仕事であります。

一言で云へば、私達は必ず一ッ以上の何かしらの團體に屬して居ます。そして、私達と其の團體との關係、其の團體と又外の團體との關係を調和するものが政治であり

ます。故に、人々の合理的行爲は其れが直ちに一面に於て積極的政治行爲であり、又不合理な行爲は消極的政治行爲であるのです。此の事實を國民が認識することによつて政治は全然新しくなるものであると私は信じます。

要するに、所謂政府は國民の政治を取る事務所で、そして、立法官や司法官や行政官は其の事務所で働く事務員であります。そして、其の事務員には、國民の養成と云ふ重大な任務を負ふて居る婦人よりも、身輕な男子の方が適して居ると云ふに過ぎないのであります。ですから、男子と女子とはする仕事には違ひがあつても、併し政治の内容には男女の區別はないのであります。

●男と女がお互ひに助け合ひ調和し家庭のために働いて居ない處には、云ひかへれば、愛の共同と勞働の共同がない處には必ず不和と破壞の要素が這入つて來る。（ジェームスン夫人）

●性質の相違は最下級の動物から最高な人間に至る迄必ず現れてゐる自然界の原則である。そして、これは鳥類のうちに最も著しく現れてゐる。（ウオーレス）



人間中心の新經濟說

ジエー●エー●ホブソンは英國の經濟學者で『資本主義の進化』『富の分配論』『帝國主義論』『社會問題』又、近くは『產業組織』及び、『勞働と幸福』等に於て獨特の社會經濟說を主張する人である。氏の所論の特色は穩健にして進步的の、そして實行を期する點にある。

氏の『サイエンス●オブ●ウエルス』は倫敎のウイリアム●エンド●ノルゲート會社の出版にかゝる『家庭大學文庫』のうちの一冊であつてホブソンの經濟說の縮圖である。又、『家庭大學文庫』は最近智識の最高を一般に頒布しやうと企てたもので各方面の碩學巨匠が筆を執つたものである。私はこの『サイエンス●オブ●ウエルス』のうちの一章を譯出してホブソンの經濟學が如何に社會の幸福を主眼としてゐるかを紹介したい。

其の專門家たらざる一般讀者のためにこの本は最善の經濟書であると私は思つてゐる。で、今、これを譯出するに當つて、私は氏の行き方を一言御話して置きたい。氏は、物の價値を定めるに人間の幸福を中心としなければならぬと云ふ。言ひ換へれば、一ツの品物のうちにいくら人間の苦痛――勞力――が入つてゐるか、又、其の品物がどれだけ人間に幸福を與へるかと云ふ事を標準として其の價値を定めなければならない則ち如何にして人間を最も高く、物品を最も安く爲し得るかと云ふのが氏の研究である。

今日の商工業は巧に組織されてある。そして、この組織によつて自然の力並びに人の勞力が社會に必要品を供給するために無數の物品を產出してゐる。で、この組織は適應と共同の非常に詳細な熟練を現してゐる。現代の商業、工業、鑛山業、銀行業及び工場に於ける構造と運用の調和は實に正確なものである。商工業に於ける生產の要素の各所有者は各自の利益、則ち、勞働者は勞銀の、資本家は金利の、地主は地代の、又、經營者は純益の考へをもつて大體は働いて居るけれども、それにも拘らず、商業經濟は可なり完全に運轉してゐる。各人が各自の利益を計りながらよき調和を保つてゐるのである。時々、或る衝突が無駄を釀したり大きな動搖があつたりするけれども、普通の商工業は大抵の場合經濟的に調和を保つて其の運轉を續けてゐる。

もし、我々が、今、倫敦市に食物を供給する無數の分業を考へて見るならば、

我々は其の運轉の整頓してゐる事に驚くであらう。けれども、これを精密に調べて見ると其の運轉のうちに、又、多くの不規律と大なる無駄とを發見する。たとへば、五乃至は十の會社が充分供給し得るだけの物品を二十の會社が取り扱つてゐる。從つて、其處から、種々の混雜及び一時の杜絶などが起る。又、非常な計算の仕損じや、精力を用ゆる方向を誤まるやうな事もある。そして、工業經濟は商業經濟よりは正確でないが、併し、人々は工業のこの雜多な種類が何萬と云ふ異つた場所に於て絶へず、適當な比例をとつて無數の物品を製造し運搬し、そして、分配する事を要求してゐる。そしてこの大きな仕事は產業組織の設立によつてとりはこばれてゐる。この組織が土地資本勞力及び能力を產業各部門に働かせる。そして、その組織の無駄な處を修理し益々其の組織を成長せしむるために新しい資本と新しい勞力が費される。けれどもこの大產業組織の中の何十萬と云ふ員のうちで自分のもち分——勿論自分のもち分はよくのみ込んでゐる——以上にこの產業組織の最後の目的は何であるかを知らうとするものは殆んどない。マンチエスターやドレスデンに住む人々のためにパンの材料を作つてゐるアージエンチンやアルベルタの農夫は自身の農作物を鐵道會社へ運び込む迄は考へて居るが其先きの事に就ては全く無頓着である。

　小さくまとまつた商業の目的及び其れを刺戟する力は一見明瞭であるけれども

其の組織が大きくなればなる程それ等は解しがたくなつて來る。故に、現代の產業組織を一全部として見ると、一小商業に於て見るやうな調和及び經濟はない。

一小商業に於ては其の取締りも一ッ、そして、其の目的も、唯、純益を得ると云ふに過ぎない。けれども、全體として產業組織に於ては、小商業に於て見るやうな中心となるべき取締りもなければ、唯、單に純益を得ると云ふやうな目的もない。唯、廣く、產業の財政と云ふものが資本と勞働の分配をするために中央發電所のやうなものとなつてゐる。併し、其の中央の力が把持する處は甚だ局部的で、そして、其の方法は產業一般の必要に應じ得る程正確なものではない。

一體、產業の目的は一般人にまんべんなく正確に其の必要品を供給する事である。そして、この目的が、とにかく、今存在してゐるやうな調和を產業組織のうちに保つてゐる。けれども、產業と云ふ管を通して一般の消費者の便を計ると云ふ迂回的な方法は、小商人の鋭い利益觀念とは比較にならない程、其の力が弱い故に、社會一般の利益を主にして產業組織を運轉させやうとする事はなか〳〵困難である。

生產の要具を維持する入費に關する範圍內に於ては產業組織は殆んど自動的にそして正確に運轉してゐる。けれども、この組織をして進步させやうとすると此處に困難は生れて來る。たとへ、最後に於ては要具と要具の間の調和を見る事が出來るけれども、とにかく、一時は其の

時々の拂底なる要具が――それが資本であれ、勞力であれ、又は經營者であれ、他の比較的に豐富なる要具の進歩すべき餘地を蠶食してしまう。則ち、其の拂底るな要具の持主が他の比較的豐富な要具の持主の剩餘を奪つてしまう。そして、國家の必要と權利もこの拂底なる、拂底るなが故に有力なる生産の要具の持主に掠奪されてしまう事になるのである。

が、こう云ふ風にして起つて來た產業組織の經濟の不調和と無駄は、かくして一方に奪はれた剩餘の多寡によつて計られない。何となればそれを有効に用ひ、全體の生産物を適當に分配して利用するならば、猶より大なる生産力を維持する事が出來る。生産の各要具の生長に資する事が出來る。

かくの如く、分解して見る事によつて社會經濟改革の第一歩を私は提出して見る。今日迄に、不生産的に亂用されて居た產業上の剩餘を勞働界と國家のために生産的に用ゆる事は、結局全體の剩餘を社會全體に吸ひ込ませ、社會を利する事になる。こう云ふ處置は云はゞ、一つの小規模の規律正しき小商業に運用されてゐる調和を、全體としての產業組組に應用する事になる。たとへ、生産の要具の所有者――資本家又は勞働者の如き――及び多くの商工業者が各自のために最大なる利益を獲得しやうと試みるとも、分配の經濟は彼等をして經濟的に調和に働かさしめなければ置かないのである。でこれは不平等な機會を基礎とした放任主義者が度々試みて、そして、失敗した理

想なのである。

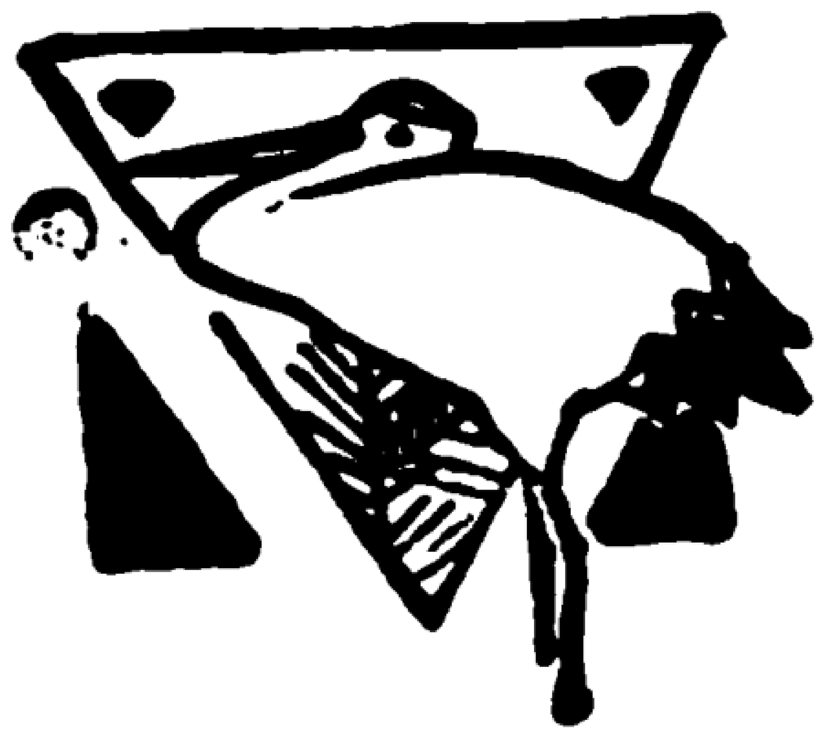
如何に進歩してゐるとは云へ、生産の各要具の持主の單なる自己利益が直ちに社會產業の調和とは決してならない。何となれば、各個人の利益は有機體として國家を通じて表現されてゐる社會の要求を無視するものであるから。今や、社會は、土地の持主、勞働者、資本家、經營者、これ等が皆共同してゐるものと考へねばならぬ。そして、社會は產業の規定に對して發言權を持ち、產業生產物の分配を受け取るべき權利を持つてゐるものと考へねばならぬ。この眞理は現代の國家の擴大された經濟活動のどの方面にも現れてゐる。たとへ、國家は凡ての產業に對して所有權も持つて居ないし、又、其の運用の全部を司つてもゐないし、さう云ふ意識ある政策もとつて居ないけれども、併し、文明國は皆個人の產業を監督してゐる。これは第一、勞働者として消費者として及び市民としての各人に對し、營利の業務が起しがちの危險及び有害を取締り、第二には、社會的並びに個人的の勞力が產出した富の分配を國家が直接取る爲に計畫したものである。

國家社會主義の完全なる政策と云ふのは個人の手に委ねて置けば獨占的になつたり、或ひは又、單なる規定だけでは處置のつかない危險や紛擾を出現するやうな經濟のとり方を整理するものである。或る國では、公の收入の便宜なる手段として或る工業をもこれにつけ加へてゐる。現代の資本主義的生產の經濟及び大規模の商業がたやすく合同して行く事は工業

の多くを獨占的の狀態、或は又、不完全な競爭の狀態に陷れる。けれども、これ等の中樞的力を以て、これが一般の傾向であり、又、一般の要求であると結論してはならない。この資本主義的產業及び大規模の商業の合同が有力に働いてゐる場合、それ等を取り締る公の政策は、國家が社會を益するやうに、其を經營する資格があるかないかによつて定められなければならない。國家が一產業を經營する充分な力があると信ずる時、或は又單なる規定では取り締りが困難であると見た場合には其の產業を國有にすると云ふ事にもなるであらう。けれども、國家が其れを經營するに必用な力、熟練及び正直さをもつてゐない時には、社會の利益は却つて、國家が唯單に個人の事業に規定を與へ、同時に其の事業の純益金の一部を租稅として國家に納めさせるのが一番である。或る特種の產業は國家經濟と政治上の發達の如何によつて違ふ。けれども、社會機關としての國家が產業の監督者として、又は、認定者として、及び其の產業が生み出す利益の分配を受ける者として有力なる役目を產業の上に持つて居る事はいづれの國に於ても同じである

で、これ等の方法の根本の意義と價値は、より廣くそしてより多く、一般人の進步のために富を用ゆると云ふ事であるそして、この方法は二つの方面から進められる。其の一つは個人が亂用してゐる不當利得を取り去り、其れを社會的に有効に費すのである。則ち亂用されてゐる不當利得を產業組織の健康のために利用

（以下四十五頁へ續く）



サンガー婦人と産兒制限

ノースウエスタン大學のエリオット教授はサンガー夫人の產兒制限運動に關して次のように言つてゐる。

科學的の判決と云ふよりはむしろ盲目的な獨斷がサンガー夫人を有名にして、そして、夫人を米國に於ける避姙運動の立役者にしてしまつた。そして、夫人の非科學的な著書も有名になつた。夫人の著書並びに運動は無視して置けばよい位ひの程度のものであるが、併し、それが世間から騷がれるようになつたので少し計り批評を加へる必要を感じる。

人口が多過ぎる結果、禍が多いと云ふことは夫人が云ふ迄もなく分りきつた事實である。そして、人口が多過ぎる原因は婦人にあるし、又、其の結果の生贄になるものも婦人であるが、併し、大部分の婦人が其の救濟法に付ては無學であると云ふのも事實である。併しながら、避姙を許す前には完全な醫學上の研究が必要である。今日迄の所謂醫學上の證明と云ふものは不完全極まるものだ。何故な

ら、完全な醫學上の證明は歴史的に研究した結果でなければならぬが、其れが缺けてゐる。

サンガー夫人の議論の根據となつてゐる事實の多くはまるで當てにならないものだと云ふことは出來ないかも知れないが、併し、其の事實は大抵感情によつて表現されてゐて、しかも、自己の特別な目的を證明するために其の事實が極端に利用されてゐる。從つて、其の事實は力の弱いものになつてゐる。のみならず、其の著書の裏面には何にか魂膽がある、つまり何にか外の動機があると云ふことを思はさしめられる。夫人の主張を列記すれば次のやうになる。

一、最も理解あるそして思ひやりのある夫に愛されてゐる既婚婦人のみが或る一種の恐れから逃れ得る。

二、精神虚弱者等はアルコール中毒に罹つてゐる親、或ひは精神病の親、或ひは又、余まり多くの子供を生んだ親の子である。

三、過去に於ては、子殺しが女の位置を改良した。

四、女は二十五才が最も結婚に適してゐる。

五、結婚して直ぐに子供の無いことが家庭生活を改善する。

六、墮胎後は一層容易に姙娠する。そして、情の冷たい女は情の烈しい女よりも容易に姙娠する。

七、普通、女は毎年か、或ひは、隔年にいや／＼ながら子供を生む。

八、進歩的な變化は男性よりも、むし

ろ女性に原因がある。

九、シェーヤー主義（同棲しても夫婦關係を認めない主義）の男女關係に於ては兩性間の引力に有益な變化が起る。

十、子供を生んでから一ヶ年後も猶授乳して居れば子供の腦に病氣が起つたり、又は母の方が盲目になつたりつんぼになつたりする。

十一、醫者も助産婦も避姙の智識を一般に與へることを許されなければならない。

十二、基督敎は婦人の進歩を少なくとも一千年後れさせた。

サンガー夫人のこれ等の主張を調べて見ると、夫人の獨斷以外のものは何にもない。いゝ加減な證據のある處にですら、夫人は男子や基督敎を攻擊してゐるのであるが、これは無益なしかも的を外れてゐるものである。夫人が何と云はうと新しい道德には男子及び宗敎の共力が必要である。

サンガー夫人の議論の間違ひは必然の原因と特別な原因とを混雜させた處から來てゐる。夫人は自分の議論に有利な關係を見出す迄、各々の問題の因果關係を何處迄も押し進めて行く。であるから、事實にないこと迄云ふことになる。又、原因と結果とを取り違へて居る處もある彼女の議論の中心點は全く公平を缺いた利己主義論である。彼女は家庭又は子供の幸福と云ふことよりも婦人の解放と云ふ處に重きを置いて、そして、家庭や小供の存在は自己の利益のためだと云つて

ゐる。彼女の主張する女性の精神とは、唯經濟的政治的及び他の支配に對する反抗の延長に過ぎない。思ふに彼女の主張は女性獨特の權利と云ふよりは、むしろ人間としての權利の主張である。

こう云ふ問題に對する建設的なそして積極的な研究は有機體的な幸福、則ち、兩性、家庭、價値ある子供、献身的な親としての幸福の標準から來るべきものである。故に婦人が母として人として發達しなければならないように男子も父として人として發達しなければならないのである。

尤も、サンガー夫人の手許に集まつてそして、印刷になつてゐる多くの手紙を讀むならば、我々も矢張り夫人と同じやうなことを感じるであらう。併し、世間はそう云ふ不幸な人達計りではない。であるのに夫人はそう云ふ不幸な人達があることを知つて、幸福な結婚生活のあることを知らない。病人計りを取り扱つてゐる人は世界中の人間が皆病人であと感じるように、又、罪人計りを取り扱つてゐる人は世界中の人間が皆罪人であるように感じるように、サンガー失人も世界中の結婚が皆不幸であり子供のために苦しんでゐると感じてゐるいである。併し我々は不幸な結婚よりも幸福な結婚が多いこと、又、子供を厄介者にしてゐる親よりも子供を欲しがり子供を大切にしてゐる親の方が多いことを知つてゐる、いづれにしろ、避姙を許す許さないと云ふことは重大な問題でいゝ加減な研究の結

（以下四十九頁へ續く）



第二回國際優生學々會

今年（一九二二年）の九月二十二日から二十八日迄の間紐育市に於て第二回國際優生學會が開かれることになつてゐる。第一回の會議は一九一二年英國優生學教育會の主催にかゝりレオナード、ダーウイン氏の司會の下に倫敦に開かれたのである。で、今日の計畫によると此の度の大會は四部に分けられることになつてゐるそして、其の第一部は動物植物に於ける純正優生學の範圍の結果を取り扱ひ、第二部は、人間に影響を與へる要素と其の制裁の研究、第三部は、移民、人種の混合、國民的の集團と文化的の集團に關まる種族の差を論じ、第四部に於ては、優生學と國家、優生學と教育、優生學と社會との關係を論議することになつてゐる。

今回の會議の名譽會長はアレキサンダー・グレム・ベルと云ふ人であつて、會長はヘンリー・フエーアチャイルド・オスボン氏である。此の大會に提出すべき論文は書記長に迄提出し、そして、書記長が

其れをプログラム委員に渡し、そして、プログラム委員がどの部門に其の論文を差し入れるべきかを定てプログラムを造ることになつてゐる。

シカゴに於ける人種問題委員

イリノイス州の知事ローデン氏はシカゴ人種問題委員を任命し、一九一九年七月に勃發した暴動の調査を命じた。此の暴動に於ては二十三人の黒人と十五人の白人が殺されて居るのである。で、委員は一九二〇年二月以來其の調査を進めてゐる。彼等は罪惡と警察制度、異人種の接觸及び衝突、又は輿論の力等を調査するのであるが、殊に、白人團體と黒人團體との關係を社會的及び心理的の方面から調査することに重きを置いてゐる。そして、今、既でに、其の研究材料は編纂されつゝある。

職業紹介所研究

ラッセル・セージ慈善會は合衆國に於ける公立職業紹介所の研究を企てた。これは公立職業紹介所の計畫、組織、及び經營に對する經驗を集めるのが目的である。そして、此の仕事は自ら三ッの部分になる。其の第一は職業紹介所の一般組織と經營に關する問題、則ち經營の單位を定めること、中央部及び支部の組織と作用の問題、事務所の配置の問題等であつて、第二は、地方事務所の經營と事務の方法、則ち、事務所の位置、建物の構造、手續き、受け付け、登錄、會見、推薦の仕方、及び、書式のこと等である。

第三は、地方的及び國民的産業生活に於て職業紹介所の位置は何であるか？

産業生活に如何なる影響を與へ得るか？又、職業紹介所を健康的に合理的に發達させるには如何なる障碍があつて、そして、其の障碍に打ち勝つには如何にするかが問題である。

そして、其の調査委員はメリー●ラダム女史とエレン●ピー●ラッセル女史其の外三人である。ラッセル女史は金滿家に生れたのであるが結婚を避けて一生を慈善事業に捧げようとしてゐる婦人であるそして、この五人が皆公立又は私立職業紹介所で働いた經驗があるのである。そして、シエルビー●エム●ハリソン氏が其の調査を監督してゐる。

淪落の女の究研

紐育州の社會衞生局から『淪落の女の研究』と云ふ書物が出版されたが、これは三婦人の手になつた著書である。其の一人はミネソタ大學の心理學の教授で先きの社會衞生研究局長メーベル●アール●フエルナルド博士、もう一人は心理學者メリー●ヘース博士、それから、もう一人は以前に紐育の社會衞生局の局員であつて今はペンシルベニアの社會奉仕研究所のアルメナ●ドーレーと云ふ女流社會學者である。

此の著書は淪落の女を六ツに分けてある。其の一ツは州立感化院に入つた女で其のうちには重罪輕罪、賣淫罪がある。其二の一群はオーバーンの監督で懲役を終つた重罪人である。其三は紐育の感化院に入れられた違警罪及び重罪犯人。其四は、紐育市の授産所に入れられた輕罪人、其五は、マグダレン收容所に入れられたもの。其六は夜間裁判所に於て有罪の宣告を受けた女達である。



愛と同情と貞操

誰でも自分の配偶者と全く融合した生活を望んでゐます。そして、それは古今東西を通じて同じです。それで居て、實際には夫を裏切る女、妻を失望の淵に陷れる男の數は盜賊の數よりも多いと云ふことです。此の夫婦の間が圓滿に行かない一つの理由は貧乏にあるとして英國には『貧乏が戸口に來ると愛は窓から飛び去る』と云ふ諺がありますが、併し、配偶が宜しきを得れば貧乏は大した問題ではないように私は考へます。

貧乏が來たり、或ひは又、其の他の困難が來て生活が苦しくなつても、つまり外界が荒れゝば荒れる程、配偶者のうちに自分の安住所を見出し得る程、配偶者の眞實を見ることが出來るならば、そう云ふ人こそ貞操を守ることは本當に自然でそして幸福です、そう云ふ人こそ、よし相手が死亡しても其の相手の幻、懐しい記憶が始終胸のうちに一抄になつて居て再婚と云ふことは考へにさへも浮んで來ないでせう。

今でこそエレンケイの眞價はほゞ分りかけて來ましたが、ケイ女史が我國に紹介されて、そして、戀愛の自由と云ふことが提唱された時の世間の誤解は矢張り此處でありました。愛の有無を問はず、本人等の意向には頓着なく、其の時の事情に都合がいゝように結婚をさせ、永久の同棲を強い、そして、夫の死後は其の夫に操を立てさせようとすることの理不盡、不幸、不利益をケイ女史は高唱したのでした。完全な結合を破壞しようとしたのではなく、完全な結合を造るために不完全な無理な不幸な結合を破壞しようとして、離婚の自由、戀愛の自由、再婚の自由を提唱したのです。

併し、夫婦の心身が全く融合して、外界の風濤が荒ければ荒い程、お互ひのうちにお互ひの安住所を見出すことが出來、そして、相手が死んだ後迄も其の記憶に生きて行かれるような大きな愛は、愛が生れた最初から存在するものだとは思ひません。最初の愛は、生れた計りの赤子のやうに非常に其の力が弱いもので、不圖したことにも挫け易い、けれども、雨に遂ひ風に吹かれながらもお互ひの細心な注意によつて、育てゝ行つて、そして、始めて、二人の全生活を覆ふような大きな愛となるのだと私は信じて居ます。

若い男女の間に生れた愛は、唯々美しく可愛いらしいものであるが人生の辛い旅を續けて居るうちに其の愛は同情と云ふものに變形しなければならぬものであることをシユライネルは其の著『夢』(此れは『若き愛と智の目覺』と改題して邦譯致しました)のうちの歡喜の家出』と云ふ一編のうちによく描いてゐます。つまり、若い娘が海の縁に坐つて何かを待つて居ましたけれども、娘は自分の待つて居るものが何であるかを知らないのです。するとやがて、自分の肩を靜かに叩いたものがあります。娘が目を上げて見ると其れは一人の男性でありました。娘は自分の待つて居たものはこれだと氣が付きました。二人は抱きし合ひました。そして二人の間に生れた愛を『歡喜』と名付けて二人は愛で悲しんで居ました。けれども、或る時期が來た時に、今迄、薔薇の蕾が綻び初めた時のように生々と、朝の日光のように快活であつた其の『歡喜』は重苦しい目をして手をだらりと下げて居るやうになりました。で、二人は失望してしまつて、お互ひに目と目を見合はす勇氣さへもなくなつてしまいました。『歡喜』の姿の變つたことに付て話し合ふ勇氣もなくなつてしまひました。

處が、或る朝、二人が目を覺して見ると、『歡喜』の姿が見へません。『歡喜』は何處かへ行つてしまつたのです。二人は暗黒な絶望の淵に沈んでしまひました。そして絶望のあまり、別れ〳〵になつて別な道を行かうとしました。けれども、優しい悲しそうな目をした小さい人が此の時近くから二人を見守つて居て別な道を行かうとする二人の手を自分の兩手にしつかり握つて、生活の旅に疲れた二人を慰めました。其の人はまめ〳〵しく働いて、心の淋しさ苦しさにやるせなく果

ぐには物狂しくなる二人をいたはつては二人の間を繋いで居ました。

やがて、彼等の生活の旅は『反省』と云ふ賢い老婦人の居る處へ行き着きました。そして、二人は、一度彼等が持つて居た『歡喜』を失つた苦しみを訴へ、どうすれば其の『歡喜』をもう一度探し當て、自分達の手に入れることが出來るかと尋ねました。すると、其の老婦人が、二人を叱つて、云ひました。『何と云ふ馬鹿な人達だろう。いつ迄目を開かずにお前達は居るのだ。お前達が失つた／＼と云つて探して居る『歡喜』はお前達の傍に居るではないか。お前達が每日爭つて居るではないか、お前達が始めて出逢つた時、二人の間に生れたものは少しの陰もない輝いた子供、則ち、『歡喜』である。けれども、其の『歡喜』の姿は日を經るに從つて其の姿を變へる。人生の道が追々險しくなつた時、暗い陰が度々通らなければならなくなつた時、『歡喜』の姿はだん／＼變るのだ。それをお前達は見ることが出來ないのか。今、現にお前達の側に居つて、ともすると離れ／＼になろうとするお前達を繋ぎ、お前達を勞り慰めて居るものは『歡喜』が成長して其の姿を變へたものである。眞面目な、美しい、優しいもの、最も寒い雪の中に居ても溫かな、荒涼たる沙漠にあつても男しい、其の小さい人の今の名は『同情(シムパシー)』と云ふのだ。それが『完全な愛(パーフェクトラブ)』なのだ』と、云つて聞かされたと云ふのです。

眞面目な男女の愛は必ず同情に變形して、貧乏に出逢つたり其の他の困難に遭遇すればする程、二人の結合が强くなつて、ツイには未來永劫變らぬ夫婦となつて本人達の幸福、子供の幸福、引ひては、社會の有益な要素となるのでありますが、其の落付いた湖水の上に舟を浮べて遊ぶような清福が此の人生にあることを知らない浮薄な人間は永久にかよはい愛『歡喜』をのみ求めて居ります。そして、其の歡喜には若い血と美が附隨して居なければならないので、若い血と美を失つた女はどん／＼外の若い美しい女に取かへられてしまいます。ですから、愛の死骸は至る處に累々として居ります。

これは婦人の不幸計りでなく、第一子供の難儀、社會秩序の亂れとなり、且つ又、そうする男自身も決して幸福ではありません。婦人の本當の愛、則ち、同情

を受けることが出來ず、自然の法則である男女の本當の融合と云ふことを一生涯、味はうことが出來ないのですから。『貞婦兩夫に見へず』と云ふ言葉が徴の生へた舊いものとなつたと云ふことは、いつかも本誌で一度云つたことがありますがそうする必要がなくなつた、つまり、今の男のような浮薄なものに一生操を立てるような馬鹿は今はないと云ふのと同じです。

今迄にも、もう、長い間、操を守ることの不必要が唱へられて來ました。けれども、其れは全然片方的な又は、形式的な操を立てることであつて、前にも云つたように死んだ配偶者の愛が大きく、其の思ひ出が樂しく、再婚などと云ふことが考へにも浮んで來ないような心の狀態が美しく、そして、貴くあることは地球が始まつて以來太陽の光りに變りは無いと同じやうに今も少しも變りはありません。

時々、人生の經驗に淺い、氣まぐれ者が飛び出して戀愛と結婚は別であるとか、貞操などゝ云ふことは婦人を束縛しようとする美しい綱であるとか揚言しますが、併し蝶が乙の花甲の花と飛び歩くように、若い者の血を吸ひ歩く浮氣者でなく、眞面目な人達の戀愛は必ず結婚となり、そして、其の結婚は、兩夫にも、兩婚にも見へようとしても見へることが出來ないような心境に迄精選され、發達して行くやうにお互ひに努力するのが最も高尚な結婚だと私は信じてゐます。

そして、そう云ふ高尚な結婚、及び、生活を爲し得る人は其の素質が既にそう出來てゐるのでありますが今の世の中には、そう云ふ素質の人が餘まりに少ないことを私は悲しむものであります。

(三十四頁より續く)

するのである。そして、一般の滿足の度を大きくするのである。もう一つは、産業が複雜になる度に比例して、其の中心、則ち、國家は一そう充分に其の産業を監督し、個人と一般との間に起る利益の衡突に歸因する經濟上の不利益をとり去りそして人間の勞力を最少限度として、人間の利益を最大限度と爲し得るやうに計るのである。



禮儀の社會的意氣

英語では禮式をエテケットと云ひます。これは交際禮式の一般であつて殊に舞踊などの折りの正式な會合を意味するのですが食卓の禮式も勿論其のうちに含んで居ます。一體、エテケットと云ふ文字は佛蘭西語で一枚の紙片と云ふ意味です。そして、これは袋の內容を說明して袋にはりつける札紙を意味したのです。それがだん〳〵變用されて禮式と云ふことになつたのです。つまり。公會又は舞踊會などでは其の會に加はる人の各々に一枚の紙片を渡します。其の紙片には其の人々の席上に於ける役目乃至は席順が記してあります。そう云ふ處から、紙片が禮式と云ふことになつたのでありませう。

佛蘭西の王政時代にエテケット夫人と云ふ人がありました。これはノワイエの公爵夫人の別名であつたのです。どうして公爵夫人がそう云はれたかと云ふと、あの有名なルイ王の皇后メリー、アントワネットの宮中の式部官長として禮式を如何にも正しく、そして、嚴密に適用した處からそう云ふ名を得たのだと云ふことであります。

一體、禮儀作法は一種の制裁機關であります。ですから、これは小道德とも云はれます。又、儀式は極く初期の政府の形式とも云はれてゐます。そして、今日の道德にしろ法律にしろ、皆、此の儀式と云ふものを材料として造つたものだと云ふ話です。社會學者サムナー教授は『大抵の野蠻人又は半野蠻人の全生活は全く儀式から成り立つてゐる。何故なら、彼等の生活は

其の種族の壓迫や、所謂神を恐れると云ふことによつて支配されてゐるから、其れが彼等を治める法律であり道徳である、一言で云へば其れが彼等の禮儀作法である。」と云つてゐます。

社會がだん／＼進むに從つて、儀式及び禮儀作法は自然、趣味或ひは情緒になつてきした。そして、其れを破ることは恐しい破廉恥と云ふことになつて來ました。けれども。凡ての他の趣味の問題と同じように此の禮儀作法と云ふことも轉々として變つて來ました。ですから、甲の國と乙の國との禮儀作法は自ら其處に相違が出來て來ました。又、同じ國でも時代によつて違つてゐます。そして、お互ひに相容れることが出來ない程違つてしまいました。

けれども、何處の文明國でも此の禮儀作法と云ふことが重大視されて居ることは同じです。毎日の交際に計りでなく冠婚葬祭其の外一切の人の會合に衣服と作法とが規定してあります。そして、法律が制裁する事柄と同じように、此の禮儀作法が規定する交際は人の幸福に大きな影響をもつてゐます。殊に、兩性間の交際年長者と年少者の美しい關係を保つ唯一の手段であります。其の上に禮儀作法は亂暴の防禦者、一種の行政官であります。

米國では簡單な結婚式は裁判所で判事の前で致します。幸福のために集まるのでなく、いろ／＼な訴訟事を裁判して貰ふために集まつて來る其れ等の人々の中で擧げる結婚式よりも、花や音樂に取り卷かれて擧げる結婚式の方が何となく禮儀に叶つて居り、そして幸福も多いように思はれます。人生は道理に訴へると同時に同じ分量に情緒に訴へることによつて支配されてゐます。で、儀式は言語と行爲の形式であつて、則ち此の道理と情緒とを表現するものであります。故に禮儀は人の行爲を氣高くするものであります。

禮儀は人の行爲の技術であります。つまり、家を立派にするとか、裝飾を藝術的にするとか云ふのと同じように人の行爲を美化するものであります。

禮儀は餘まりに人爲的だと云つて卑しむ人があるかも知れません、又、人間生活の凡ての他の有益なものと同じように亂用される場合もあるかも知れません。併し、土間に居るよりも疊の上に居る方が氣持ちがよい以上、又、手づかみで食べるよりも箸で食べた方が

都合がよい以上、矢張り、禮儀を守つた方が幸福が增すわけであります。ですから、有禮は無禮よりも必ず人の美的感情に滿足を與へます。文明人の感情は無作法よりも作法を重じてゐることは文學が發達したことによつても明らかであります。

此の禮儀作法の一部である食卓の作法は一種の模倣であります。昔の羅馬人は椅子を用ひないで、はらんばいになつて食事するのが禮式でありました。又、或る國民はあぐらをかいて食べるのが禮式でありました。又、或る國民は足を投げ出して食べるのが禮式でありました。併し、他國人と接觸する機會を持つ國民が自然精選された禮式を持つようになると云ふことは社會學者の言葉であります。

歐米人は家庭内であれ、家庭外であれ、小集會であれ、大集會であれ其の禮儀作法は殆んど一致して居ますが、我が國民は一部分の事柄には非常に面倒な禮式を守つてゐても、全體としては誠に不作法極まることを致します。汽車の中電車の中其の他大勢の人が集る處では少しも禮儀を知らない野蠻人のやうであります本國でこう云ふ習慣になれて居るものが一朝禮儀作法が公私に拘らず嚴密に行はれてゐる國へ行つた時には早速困つてしまふのであります。

何處の國へ行つても必ずしも其の國の禮儀作法を直ぐに學ばなければならないと云ふことはない、自國で慣れてゐる禮儀作法で押し通して差し支へないわけであるし、もし、又、どうしていゝか分らない場合は聞いても少しも不都合はないわけでありますが、併しこれは自分の國で常に禮儀作法を守つてゐる人だけに對して言ふことであります。所謂不作法な行爲が習慣になつてゐて、それが他人にどう云ふ不都合を與へるかと云ふことに付て決して考へたことのない人が外國へ行つたなら本當にみじめであります。つまり、禮儀作法の精神を體得して居さへするならば、其の形式が違ふ外國へ行つても決して困るようなことはないのであります。

禮儀は前にも云つた通り、模倣であります。併し、模倣するには觀察力が必要です。處が、不作法を習慣として居に人には其の觀察力がありません。ですから外國へ行つた時にはとんでもない恥をかくのです。我が國の人が外國へ行つた時には外國人の侮辱を受け、甚

しきに至つては眞面目な家庭では日本人を招待することを避けてゐると云ふ事實は、外に何にも理由はない唯、日本人が不作法だからです。

　私は男の子を二人中學校へ通はせて居りますが、學校から歸つて來た時の動作及び言語の亂暴なのには時々悲觀してしまいます。暑中休暇の間一ヶ月うちに許り居りますと餘程よくなつて我が子らしくなりますが又、學校が始まつて三日間も過ぎますと、又、野蠻人のやうになつてしまいます。此の點に付て私は教育者の一考を煩したいと思つて居ります。外國へ行くことになつた、さア、外國の禮儀作法を覺へなければならないと云ふのが一般の風習でありますが、併し日頃自國で禮儀作法を重じて居ればそんな必要は少しもないのです。

　歐米人が日本へ行くから日本の禮儀を學ぶのだと云つたのを聞いたことがありません。彼等が禮儀作法を學ぶのは外國へ行くためではなく、自國での生活のためなのです。我が國民も外國へ行くからと云つて急に禮儀作法に付て考へなくてもよい程度に今の學生が紳士として養成されることを私は希望します。それに付ては、勿論、家庭でも責任を持たなければなりませんが子供に影響する學校の努力もなか〳〵強いのですから、教育當局者にも考へて頂きたいと思ひます。

（三十八頁より續く）

果斷案を下すべきものではない。

　要するに、サンガー夫人の主張の一部は不幸な婦人の氣やすめであると同時に復讐の請負のやうなものである。我々は夫人がかような運動の卒先者になつた勇氣を稱讃する。けれども、我々は彼女を婦人の賢い指導者として認めることを抗む。なぜなら、感情主義は大抵の場合ひ病的でさう云ふ重大な問題に決して立ち入つてはならない。こう云ふ問題は其處迄も冷靜を要するものである。

ある母の感想

原田琴子

×

子供は愛に依てそだつといふ、けれども、ほんとうのよい母となるためには、愛を有するばかりでは足りない、聰明を持たなければならない、力を持たなければならない、私はこの頃切にそれを思ふ。

私は子供を愛してゐる、けれども子供に對するその愛のみに依て 子供が身心ともに最もよく發育するであらうとは、私には思はれない。私は何かにつけては 私の力の足りないこをを覺る。聰明な頭腦を持たぬこと、豐富な智識を貯へて居らぬことを痛感する、そして 私の子供の生ひ先きについて甚しい危惧を懷かないで居られなくなるのである。

ハミルトン夫人のエレンケー評傳を讀んで私は、彼女の母が彼女の幼ない時から どんなにその性情に留意し、彼女の未來を理解したかに喫驚した。エレンの母は彼女が 人生の醜くい方面を見るに堪へ得ぬことを知つてエレンは小説家にはなれないと思つたと云ふのである。

子供が物の音響をきゝわけ得る頃になると私は もし私に音樂の素養があつたら、どんなによいだらうにと考へた。そしてこれは子供が 大きくなるにつれて ます／＼深くなる考へであらうと思はれた。

×

水の流れる音にも風のさやく音にも潑剌とした 興味を感ずるらしい子供、窓の外の雀の囀りをきいては手を振つて喜ぶ子供、その子供は ふくよかな乳房を持つ母の手にかなでられるいみじき樂の音に、どんなにか心を養はれ得るであらう。

女學校で習つた唱歌の外に音樂といふものを知らない私、それも 一番嫌ひな學課であつて、休み時間にオルガンを彈くこともしなかつた 私はただ徒らにさう思ふばかりである。そして私はせめて私の子供に——男の兒であるけれども——出來るならば幼ないうちから ピヤノを習はせたいものと思ふ。音樂の神秘に觸れさせたいものと思ふ。

×

子供に向ふときほんとうに眞面目にならないでは居られない。子供に ごまかしはきかない。生後一年半になる私の子供はもうちやんと大人の心持がわかる。種痘をした後に 大變熱が出て疲れて

痩せ細つた顔を見て、もしや死たはしないかと思ふと私は自然に涙が出た、とめどもな、流れた。ぐつたりして私に抱かれてゐた子供は不思議さうにおどおどした眼でその時私を見た。そして心を傷める風に見えた。惡い事をした、とその瞬間に私はつく／＼後悔したのであつた。

お菓子をいゝと思ふ數だけ出してあとは戸棚へしまつてしまふ、子供はぢきにたべ終る、そしてきよろ／＼とあたりを探す。もつとくれといふ意味の顔をする。出してやらないと怒つて泣くお菓子ばかりではない、何か氣に入つた——糊の瓶とかマッチとかインキ壺とかいふやうな——ものが眼に入ると それをとつてやるまではあくまでもせがんでぐずつてゐる。さつてやればそれを開けてくれといふ意味の强要をする、してやらないと またぐずる——そんな場合私は大抵のものなら子供の云ふまゝに與へもし、くれてもやる、ふた葉のやうに柔かい子供の心を 害ないたくないために。

叱るのはまだいゝ、私の一番したくないと思ふのは、おどかしたり、ごまかしたり、惡ふざけをしたりすることである。或る場合には子供は大人よりも利口で、相手の心持を わかるものだからである。さういふ時の——大人のわるい ところを見知つた時の子供の心はどんなにか寂しいであらう、私は子供にそんな寂しさだけは味はせたくないと思ふ。

子供を持つてから私は自分の性質上の缺點を一層强く感じて來た。よその子供が私の子供に對して私のして貰ひたくないことをする、その場合に私は如何してもそのよその子供に止めてくれといふ事ができない、云つたところで別段わるいこともなく、その子供も腹を立てるのでない事も分つてゐながらたゞ何となくいへない。これは子供のれーやなぞに對しても同じである。氣にはかゝるけれども小言がましい事を云ふのが何さなく氣の毒で云ひ得ない。ほんとうにこれは私の最もわるい性質なのだと思ふ。もつと自由に、こだはらずに竹を割つたやうに行けないものか、私は子供のためにさうなつて行きたいものだと思ふ、でなければ子供はおひ／＼生長するにつれてその母に對し失望を感じるであらうもの。

編輯の後

水つぽい色をした幾枚かの葉を離れてツイと長く莖を伸してそしてクイと頭を曲げてゐる美人草の蕾、やがて除々と頭を上げ始めたかと思ふと私達が寢て居る間にパツと深紅色の花瓣を誇らかに開きます。夜、窓を閉める前に水をかける時には尨毛(ムク)を一杯つけた固い蕾であつたのが朝は美しい立派な花になつて居るので私達は驚かされます。それでも、夜がシラ／＼と明けようとする時分に起きて見ると一枚に一ツづゝ黑點をつけた四枚の花瓣がまだかたまつたまゝ蕾の時の殼を頭に被つて開ききれないでゐます。丁度、一旦床から出た子供が『起きるんだけれどまだ眠(ねむ)たい』と云つて頭だけ布團の中へつッこんで居るような恰好をして。(以下六十四頁へ續く)

教育社會學講話（第四回）

人間性の相違

人間は大體皆同じように造られてあります。けれども、今迄に述べて來たように人間の本能が皆それ〴〵に違つて居りますから、人は矢張り十人十色であります。たとへば、自分は人よりも優れた者にならうとする慾望はどの子供でも持つて居るものでありますが、併し、其の慾望の度には一々違ひがありますから、其の表現の仕方も亦違つて來ます。其處で矢張り、喧嘩好きな子供とか柔和な子供とか云ふような區別が出來て來ます。

子供の思つて居ることを行爲に現はさせるには其れ相應な刺戟が必要でありますが其の刺戟に對する反應でも一人々々皆違つて居ます。早いもの遲いもの長續きのするもの、忽ち忘れてしまうものとあります。又、或る刺戟には非常に强く反應しても、

或る外の刺戟には全く無感覺であると云ふこともあります。

或ひは又、怒りに伴ふ感情でも必ず復讎してやる、又、必ず出來ると思ふ時には心が落ち付くから其の感情は顔には強く現れない。けれども、復讎などと云ふことは考へない程度の怒りの方が却つて顔に強く現れて居ると云ふこともあります。

不幸にして今日迄には人間性の其れ等の相違がまだ一般的にも分類してありません。又、多くの人は人間性の相違の分類などは不可能なことだと思つてゐます。そして、低能兒の分類ですらもまだ組織的には出來て居ません。尤も、低能兒が普通兒よりも多く専門家の注意を受けてゐると云ふのは事實ですが。個人々々の相違を説明する一定の組織ある方法は敎育上なくてならぬものであります。人を死に致らしむる病氣の分類が出來て居る以上、人が生きて行くに必要なそれ〳〵の特性の分類も亦なければならぬものであります。

もし、敎師が一人の生徒に付て報告しようとする時には其の敎師は其の生徒を説明するに正確な誰にでも了解出來る言葉を必要とします。其の生徒の將來の方針は其の

説明書によつてほゞ定められるのでありますが、併し其の説明書のうちに用ひられてある言葉が不正確であるならば其の生徒の本當の性質は分りませんから、折角の其の説明書も有益でないと云ふことになります。ジョンストン氏は『現代の中學』と云ふ著書のうちで次のように言つてゐます。

『私の師範學校では、敎師は卒業しようとする生徒の特長を毎年學校の事務所へ報告しなければならぬことになつてゐる。これは校長が卒業生に職業を紹介する時に參考に用ゆるのである。故に、敎師は平生から自分の受持ちの生徒の各々を了解し、それ〴〵の特長を知つて置く任務がある。併し、生徒の性格を説明する敎師の言葉が正確でないならば説明書は却つて有害である。處で、生徒の性格を云ひ現す一定の言葉がない以上は正確を期することは難しい。正確な言葉がないために敎師は往々自分の想像によつて生徒の性格を記述する。其のために事實に合はないことが度々ある。たとへば、善良であるけれども、成績が惡いとか、成績はいゝけれども態度がよくないとか、又は、あらゆる點に於て不足がないとか、云つてもそれが敎師の想像であつて事

實でないことがいくらもある。それで最善な記述法は具體的な事實を並べて置くことになつてゐるが、實にこれは一人格を表現する一定の正確な言葉が無いことを語つてゐる。正確な言葉がないので一々例を擧げなければならないのだが、これはなか〳〵不便な方法である。』と。

氏は、又、次のようにも言つてゐます。

『生徒は其の能力に於て、慾望に於て、興味に於て、必要に於て、皆異つてゐるものであるから、一人の生徒に對しては秀越な機會でも、他の生徒に對しては何でもないと云ふ場合がある。故に、凡てに對して平等な機會と云ふことは無意義になる。』と。

氏は又『學校と家庭教育』と云ふ著書のうちで次のように申ます。

『教育に於ける新紀元とは何を意味するかと云ふに、それは兒童の心的能力には非常な差があるところを知ることである。そして、教場に於ても、又、他の場所に於ても各兒童の個性を認めて其れを指導し、彼等の情緒や智力の向上を計り得る教授法を組織することである。此の頃、將來職業をとらねばならぬ者の指導とか、道德上の指導

とか云ふ言葉が用ひられるのは、本當の敎育法が出現しようとしてゐるしるしである。則ち、これが敎育の新紀元の始まりである』と。

マクミリアン氏は言ひます。

『人事を處理する方法を知らうとするならば私共は人間性の相違を益々よく知らなければならない。そして、人間性を知るには子供を硏究するのが最上な方法である。なぜなら、人生の義務が子供の心の上や性格の上に强い印象を殘してゐないから、人間の獲得性と自然性とを區別して見るのに容易である。』と。

『公立學校に於ける生徒の成績』と云ふ著書に於てジャッド氏は言つてゐます。

『米國人の子供は始めの三年間は外國人の子供に優つてゐる。彼等は國語に不自由がないので國語に不自由を感ずる外國人の子供に優るのは當然であらう。同じ外國人でも伊太利人の子供は非常に成績が惡い。そして、其の重もなる理由は伊太利人の住んでゐる區境は大抵最下等な處であるから國語の不足以外の要素が彼等の家庭のうちに存在してゐるのである。歐洲からの移民のうちで伊太利人が最も劣等なものとされて

ゐる。猶太人の子供は他國の子供よりも遙かに優良である。猶太人の兩親は皆外國籍を使つてゐるし、又、彼等は貧乏のために苦しむ場合も度々あるのだが、それでゐて猶太人の子供が他の外國人の子供よりも一番成績がよい。で、これは猶太人の家庭が他の外國人の家庭よりも高尙であることのしるしである。ポーランド人やボヘミア人の子供は最初の一年は非常に進歩が遲いが、併し、其の後の四年間は米國の子供と並行する。處が、最後の三年間に於て、又、落ちてしまう』と。

十九世紀の終り頃迄に、世間に知られてゐた唯一ッの人間性の分類は昔希臘人が用ひた四ッの性質を標準にしてゐたゞけです。そして、其の四ッは多血質、遲鈍、短氣憂鬱です。そして、今猶多くの敎育家は此等の分類法によつてゐたのでありますが、ジャストロー博士は其の分類法を修正して心理的にしてゐます。そして、ロッス博士は彼の『社會學の基礎』のうちで此の分類法に付て四ッの計畫を立てゝゐます。併し、これは社會學の問題と云ふよりも、生理學心理學の問題でありますから社會學者は生理學者及び心理學者からの結論を待たなければなりません。併し、社會學者は自分等

自身の必要を述べたり、又、生理學者心理學者の斷定を批評するのは自由であります。今は心理學を個性心理と變異心理との二ッに分けようとしてゐる傾向があります。が併し、ソーンダイク博士は此の分類法には反對してゐます。其の反對の理由は、特種の型の具體的な例は稀であるし、たま〳〵特種な型があつた處がそれは他の型の中へ入ることが出來る。と云ふのであります。けれども、この反對論は決定的なものではありません。なぜなら、色にたとへて云ふならば色が皆それ〴〵の名を持つことは有益であります。そして、純粋な色は稀であつて、つまり、靑と云つても本當に純粋な靑は少ないにも拘らず、矢張り靑と云ふ字は必要であります。それと同じように私共が子供の個性の差を研究し、そして、其の差を發見した時に其の差をはつきり云ひ表す言葉が必要です。其の言葉が出來た時に人間性の相違の分類が出來ます。

抽象的の事柄を取り扱ふことに優れた能力を持つてゐる子供があります。こう云ふ子供は具體的な事柄を取り扱ふことに於ても優つてゐるが、併しこう云ふ子供の特長は抽象的のことであります。故に、彼は數學文法及び其の他の抽象的な學課が優等で

あります。具體的な事柄を取り扱ふに特色をもつた子供は具體的の範圍内で教へられて居る間は成功するが、一朝抽象的の事柄に移るとすぐ失敗します。又、もう一種の子供は活動家であります。此の種類の子供はものを考へないと云ふのではないのですが、併し、人やものを管理することに特色を持つてゐるのです。こう云ふ子供は運動會を處理したり、學校新聞を造つたり、選擧でもする時分には其の特色を發揮します。こう云ふ子供は要するに原則を掴んで、そして、それを應用する技倆を持つてゐるのです。又、或る子供は感情が精選されてゐて翫賞的の力に優れてゐます。

『一般的に云ふならば、兒童に應用出來る試驗が二種ある。其の一ッは可なり正確に或る特種の心的特長を見る方法で、たとへば、記臆力とか、理解の早い遲いとか、ものを適當に整理する能力、色を識別する力を試驗する方法で、第二は子供の智力の一般性を決定するのが目的である。たとへば、國民性の相違、性、年齡、又は社會上の位置などに連絡した智力の平面、或ひは一般的の能力を試驗するのが目的である。

『どう云ふ種類の學校へ行つても、必ず、特種の心理上の問題を見出し得る。たとへ

ば、綴りを覺へない子供、諳誦に不得手な子供、又、讀書が正確に出來ない子供、音調を聞きわけない子供、云ひつけを守らない子供、又は、特種なことには秀でゝ居ても一般のことに無能な子供と云ふように。で、これ等の特種な性質を詳細に研究することが教育上目下の急務である。そして、其の研究材料にも場所にも今日の處では事を缺かないが、唯、缺けて居るものは其れを研究する人物である。

『智力の一般的の形を計ることは、ビーネーシモン試驗法によつて可なり進んでゐる。此の試驗法は佛蘭西の心理學者ビネーと彼の共力者シモン博士とによつて一九〇五年に工夫されたもので、そして一九〇八年には猶もう一歩進んで其の試驗法に大修正が加へられた。で、此の試驗法は低能兒の教育に非常な便利を與へた。後に、一九一一年になつてからもう一度其の試驗法は修正されたが、これは凡ての文明國の教育者並びに心理學者の多大な注意を引ひてゐる。

『結局、凡ての學校組織は少なくとも兒童を四組に分けて教授することになるだらう天分のある兒童、遲鈍な兒童、智力に幾分の缺陷ある兒童と云ふように。そして、も

う一組、所謂低能兒の組を造らなければならないであらう。』と。そして、これはホイップル氏の提出にかゝる米國の國民教育會の最近の報告のうちの一節であります。『同じような教育を一般の兒童に施すことは生來の差を益々大きくする計りである。同じように敎へるならば成績のいゝ子供は益々よくなり、惡い子供は益々惡くなる。一年を跳び越へることが出來る子供は、再び、又、一年を跳び越へる機會があるに反して、一度落第した子供は又落第する。これは敎育家の想像ではなく事實である。智力の試驗がよく此れを證明してゐる。たとへば、米國の電信局は心理的の試驗を施して技手の候補者を選むことによつて六ヶ月の修養期を省くことが出來た。陸軍を募集するにも亦、法廷で罪人を調べる時にも此の心理學上の試驗法が今應用されてゐるが、實にこれは兵士を造る上に於て、罪人を取り調べる上に於て非常な入費と手數が省ける。』と言ふことが一九一八年五月一日のウイスコンシン州文部省の報告にあります。

今日迄、人間性の問題は科學の力ではどうすることも出來ないようになつてゐまし

た。けれども、今、科學は除々と此の問題に進入して行つて、人間性を研究し、其の相違を發見し、其の分類を造り、そして、人間性に對する智識を組織しようとしてゐます。そして又、他の一方に於ては各人に各々の本能を制裁する武器を供給しようとしてゐます。二十世紀の最大なる目的である大共同生活を準備する教育はどうしても此の人間性の研究から出立しなければならないのであります。競爭の社會でなく共同の社會を造るためにはどうしても此の人間性を捕へてこれを教育することに其の基礎を置かなければならないのであります。

（五十三頁から續く）それと並んで三色菫は紫と黄と白で色どつたおどけた顔をゆら／＼と微風にゆられながら晴やかな夏が近づいた事を私達に告げて居ます。

　又、純白な花瓣を一杯ひろげて黄金色の心をあらはにしてゐる野菊の許へは蜂や蝶々が折り／＼訪れます。けれども美しい優やかな蝶が來て居る時には微笑を含んで眺めてゐる私も、不作法にブン／＼唸りながら花の心を突ツついてゐる固い體の蜂を見ると急に腹立たしいような氣持になつて私は其の蜂を追ひ拂ひます。

　僅か三尺の窓枠の上の鉢に盛られた一塊の土の中に籠る宇宙の神秘と計畫！　其の神秘と計畫がこんな小さい鉢の中にさへ現れてゐて其處から私達が無限な喜びと爽快な氣分を汲み出すことが出來ると思ふ時に、私は此の人生が實に豐富であるように思ひます。そしてどちらを向いても樂しいことが充滿してゐるような氣分になります。

大正十年五月二十三日印刷納本
大正十年六月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

發行所　東京四谷區南伊賀町四一
婦人と新社會
振替東京五三六八八

